

第3回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

ただ今から第3回サッカースタジアム検討協議会を開催いたします。

本日は、加藤厚海委員が所用のため欠席です。その他の方は全て出席されております。

お手元の次第で確認させていただきたいと思います。本日、議事としては、最初に『サッカーを通じた地域貢献活動について』、2番目に『広島のまちづくりにおけるスタジアムの位置づけについて』、第3回のメインはこの(2)になります。それらを踏まえ意見交換をさせていただこうと思います。あらかじめ意見交換として、これまでの流れの中、それから本日のメイン(2)をにらんだ場合に、私の方で一応3つの視点をあらかじめ用意させていただきましたので、その視点で意見交換をさせていただければと思っています。その他にもあればそれも聞くことにしております。

配布資料につきまして、資料1-1としてサンフレッチェ広島の地域貢献活動、1-2が広島市D oスポーツ体育指導者招へい事業について、2がひろしま未来チャレンジビジョン、県の概要版。それから資料3-1が世界に誇れる「まち」の実現に向けて、ということで広島市からの資料です。3-2は広島市都市計画マスタープラン（改定案）の概要について、これは現在、改訂中ですので改訂案となっております。資料4がU-20 女子ワールドカップ 広島開催、資料5がエディオンスタジアムクラスで開催される大会となっております。それに加えて、今日の本題に関連する資料として、福岡市が最近まとめたものの一部ですけれども用意させていただいております。以上でございますでしょうか。

それでは早速、始めさせていただきます。前回、第2回の協議会においては、広島におけるサッカーの現状ということで、サッカーというスポーツが広島においてどのような状況にあるのかということについて、資料を提供いただき、共通認識をしたところだと思っています。

とりわけ、小谷野委員からはサンフレッチェ広島というチームがどういう歴史的背景を持って広島という地に生まれてきたのかということと、その現在の姿、それから、そういった中では、そもそもこういったチームがどういった目的で設立されたのか、とりわけ、地域との関連の中でそういったものがあるし、それから、意図として地域と一体となってという部分があったという話があったと思います。そして、昨年の優勝を含めて実績がどのような状況になっているのかということ、ここは推移も含めてお話をいただいたところです。

そういった中で、さらに今度は学校のクラブ活動において、サッカーと他の競技とのとりわけ在籍者数の比較、年代別の試合数などということで、客観的な情報だけですが、そういったものだけでも広島という地にサッカーが根付いている状況について認識を深めたと思っています。

サンフレッチェ広島の設立の目的の中にもあるのですが、地域貢献活動をかなりされているということでした。それについて実際どのような状況なのか。選手が小学校を訪問し、子ども達にサッカーを指導しているということですが、そういった内容、それから受け手の子ども達がそれをどのように捉えているのか、前回の資料だけでは読み取れないところがありましたので、今回、それについて前回の補足として先にお話しいただくことにしています。(1)のサッカーを通じた地域貢献活動についてというところです。これについては、サンフレッチェ広島の山出様に今回、資料も用意させていただいて、出席していただいております。具体的にお話を伺い、どういう状況にあるのかということについて、私達の方で認識していきたいと思っています。よろしくお願いします。

サンフレッチェ広島 山出コーチ

皆さま、こんにちは。今ご紹介いただきました、サンフレッチェ広島の山出と申します。

私事ですが、先日、手術をしまして、今日、帽子を被ってプレゼンさせていただくことをお許

してください。

それでは、サンフレッチェ広島の地域貢献活動ということで、主に私どもはサッカーを通じて多くの子ども達、多くの方達に、スポーツの楽しさを醸成していく仕事をさせていただいております。

まず大前提でございますのが、ここまで色々とお話しいただいていると思うのですが、サンフレッチェ広島としてのクラブとしての在り方、理念を復習させていただきます。サッカー事業を通じて夢と感動を共有し地域に貢献する。スポーツ文化の醸成とサッカーの振興。それから、私どもが目指しておりますのは、やはり皆さんご承知いただいておりますように、日本一の選手育成型クラブをつくる。という部分であれば、今日お話しする根幹にあります、地域の子も達、多くの方達にサッカーを通じてスポーツ文化の醸成に役立ち、且つ、多くの方達に応援していただくクラブをつくる、という意味で日本一の選手育成型クラブを目指しています。その具体的な事業の中には普及事業であったり、スクール事業であったり、具体的にはこの後申しあげますけれども、ただ、プロとして球団でプロの選手をつくれればいいのかということではございません。やはりサッカーを通じて、自立した選手の育成、豊かな人間性、やはりサッカーを通じて人間として育ったなということですね。なぜかということ多くの子ども達、多くの方々がサッカーを楽しんでおりますけれども、プロになれる子は本当に一握りです。それ以外の多くの子ども達がサッカーを通じて人間的に成長したなという部分を大きな根幹に置きたいと思っています。

地域貢献ということで、普及ということでイコールとお考えいただければと思うのですが、やはりサッカーの入口、スポーツの入口としてサッカーがあるということです。昨年度の優勝も含めて、日本代表の活躍も含めて、サッカーが多くの方達にご認識いただけるようになりましたけれども、まだまだの部分もございます。

私達のイメージするものとしては、サンフレッチェ広島の存在が日常生活の一部として認めていただく。例えば、今月31日にF C 東京戦があるというのが、なんとなく多くの方達の話題になるような部分まで浸透していけばなと。そのためには色々な活動をして、今日お話しする貢献活動もその一つと考えています。

私達の基本理念はこの写真に表れています。コーチが子ども達に向かって接しておりますけれども、実は常に配慮すべき点が2点ございます。お気づきになりますでしょうか。すぐお気づきになるのが、子ども達の視線に合わせてということはお気づきになると思います。プラスこれがお気づきになれば素晴らしいと思いますが、太陽がどちらにあるでしょうか。眩しいのはコーチです。常に立ち位置、それから視線を合わせて子ども達に接していく、そういうことを基本の大前提においております。ですからこれが逆になると、いくら小さな子ども達に話をしようと思っても、やはり集中できないですね。そういう部分をまずは我々のコーチ、スタッフのスタンスとしてあります。多くの子ども達に色々なことを伝えるにあたって、我々のなすべきスタンスはこうだよということを常に忘れないように思っています。

このあたりはすでに今までのミーティングでやっていただいていると思いますが、やはり地域貢献活動がサンフレッチェ広島の大きなミッション。今回、このようにたくさんのマスコミの方においでいただいておりますが、プロ球団として露出していく部分というのは、やはりプロの試合、プロの選手。ところが私達はそこに至るまでの多くのパイ、多くの底辺を広げるための仕事やはり大事なミッションだと思っております。それを通じて地域に活気、元気、勇気を与えて協力していきたいと考えています。このあたりはすでに私達にはかなりの経済効果があります。

それから、先ほど言いましたように、プロになる選手だけではなく、サッカーを通じて本当に人間として成長していく子ども達、それを見守る大人の方達にいい影響を与えたいと思っています。

ここにありますように、サッカーを通じて「知」「徳」「体」のバランス、「人材育成」を目指していきたいと思っています。ただ私達はプロの球団である以上は、プロになってくれる選手を

一人でも多く輩出できる。でなくてもサッカーファンとしてサッカーを楽しむ、スタジアムで応援していただく、スタジアムに来ないけどテレビで応援していただく。もしくはビジネスとしてサッカーに関わっていただく、そういう方達の広がり核になって、サンフレッチェ広島が核になって、サッカーが核になって広がっていくことが大きなミッションだと考えています。

今日、大きな中身として色々なことをやらせていただいております。この中身については、あと写真、映像でご紹介しようと思っています。定期的なサッカースクール、サッカー教室、それから試合会場もそうでしょう。エディオンスタジアムであれば、第一、第二球技場で子ども達にサッカーを楽しんでもらっています。先日もありましたが、親子でサッカーを通じて楽しんでいただくイベントもあります。それから先ほど会長からご紹介がありましたように小学校訪問。実は選手だけでなく、私達コーチも多くの学校に出向いております。スローガンは「年中夢求」です。通常は先ほどご紹介しましたように、マスコミというか露出するのはプロの部分ですが、これは当然のことだと。ただそれを支える底辺の部分、それから、この外には多くの方達がスポーツを楽しんでいただいて、スポーツ文化を醸成していくという大基盤があると思います。多くの種をまき、芽を出し、枝葉が大きく育っていくことが、大事なイメージとして持っています。

このように多くの子ども達が笑顔でサッカーを楽しんでいただく。こういう子ども達の周りには必ず大人の方達、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、兄弟、姉妹が必ずおられます。そういう広がりをつくっていきたいと思っています。

これはサッカーの専門的な部分ですが、やはりプロとして成長していくためには、小さな子ども達の取り組みが必要である。小さな子ども達への取り組みというのは、サッカーばかりではなく、サッカーを通じてスポーツ全体に広がっていかなくてはならない、という部分では小さな子ども達への取り組みは非常に必要でありますし、私達は大事なミッションだと思っています。

とにかく教え込むということではなく、スポーツそのものが楽しいということをまず伝えていきたいと思っています。そのためには先ほどコーチの写真をお見せしましたがけれども、大事にしているのは大人として、コーチとして子ども達にどう接していくかということを大事にしています。そういう意味ではコーチング、実際に指導する、マネジメントしていく、教育していく、全てのことが大事な部分だと思っています。

ここにも子どもに接する場面が出ておりますけれども、スタンスとしてこういうことを頭に入れたつやするようにしています。とにかく大人というのは、話して伝えたいつもりでいる。だけれども伝わっていない。ところがそれを見せてやる。サッカーで言えば、シュートをこうやるんだよと口で言っても伝わらない。ところが、見せてあげると覚えている、実際にやらせてあげると身に付くこともある、というスタンスを常に忘れないようにしたいと思っています。

具体的にどのような活動をしているかということで、スクール活動を県内、それから山口、島根。これはあなた達の営利事業でしょ。そうなんです、実はそれは手段として多くの子ども達にサッカーを通じて運動を広めていく、それを見守る大人の方達に広めていくことが大前提にあります。

紹介しますと、エディオンスタジアムでもやっておりますし、かなり多くの会場で子ども達が。これは昨シーズンです。今シーズンはトップチームのユニフォーム、ボーターに星が付いたユニフォームでトレーニングすることができます。総合しますと1,100~1,200の会員さんに来ていただいております。

サンフレッチェ広島はいいゴールキーパーを育成する土台がありますけれども、キーパースクールというもので、コーチ達も関わっています。

なでしこという部分で、この9月1日にも試合がありますが、女性の方達への取り組みも欠かさず行っております。もちろん大人の方、お仕事が終わってサッカーを通じて体を動かしたいという方達のための門戸も開いております。

これはチームですね。この夏は嬉しいことに小学生のチームから、中学生のチーム、ユースの

チーム、3カテゴリーが全て全国大会に行かせていただきました。これは色々な方達のご支援のもとだと思っております。もちろんここにトップチームにつながっていくような選手が出てくればと思っております。

それでは、ここまでのおおもとなります私達の活動を映像で見たいと思います。見ていただきますのは、保育園、幼稚園の子ども達と接している様子、小学校に行っている様子をご覧いただきたいと思います。

【DVD上映】

サンフレッチェ広島 山出コーチ

今ご覧いただいたのが、D oスポーツと言いまして、小学校の体育の授業に訪問して、これはコーチだけのバージョンですけれども、コーチだけで年間20校ぐらい行かせていただいております。先ほどご紹介がありました選手が行くバージョンは年間2回ぐらいです。

今の映像を基にまとめますと、幼稚園、保育園の子ども達と触れ合う活動、それから小学校に行かせていただく活動、これは年間を通じて今言いましたように20回程度。幼稚園、保育園についても同様の程度やらせていただいております。

これは昨年度のホームタウンふれあい活動で、これは選手が廿日市の佐方小学校を訪問させていただいた時、ちょうど優勝した後ということもありまして大歓迎を受けまして、中国新聞を広げて歓迎していただきました。

それから貢献活動の一つとして、先ほど紹介しましたようにホームゲームの時に、これは第二球技場ですけれども、親子がボール一つにして触れ合う活動も随時一貫してやらせていただいております。サッカー教室・クリニック。うちのエースと言え、佐藤寿人ですが、ストライカースクールを夏休み限定でやらせていただいております、今シーズン3回目になりますけれども、佐藤寿人選手は本当に疲れている中、2時間子ども達と汗だくになって活動してくれています。こういう夢を与える活動。

それから、最近は世界に出て行かなくてはいけないということで、英語でサッカーをする。全て最初から最後まで英語でサッカーをするというのを、昨年度トライアルでやらせていただきました。

やはり先ほども言いましたように、私達が子どもたちに関わる、サッカーに関わるのは一部分ですので、その生活を共にしていく、全くサッカーをやらない野外活動もやらせていただいております。

まとめに入っていきますけれども、やはり最初に見ていただきましたスライドですが、入口として貢献活動＝普及活動と思っていますので、これも常に選手が関われば一番子ども達に夢を与えられることだと思うのですが、なかなかスケジュール上のところで、私達コーチが多くの子ども達、それから多くの大人の方達に接していくというのが育成型クラブの基盤だと思っております。イコールこれは地域貢献活動だと思っております。

サッカーを通じて何を指すかという、やはりプロ球団としてはプロの選手が一人でも二人でも出てくれたらいいというのがありますが、それ以外の子どもが多いということであれば、サッカーを通じて常識ある社会人として自立してほしいと、豊かな人間性を育むこと、サッカーを教えるということではなく、私達の合言葉はサッカーで教える、サッカーをすることによって、色々なことが身に付いてほしいと思っています。これは6歳以下の子ども達ですけれども、本当に笑顔で常楽しんでくれるような環境ができれば良いと思っています。それでは最後にイメージを見ていただきましょう。

【イメージ映像上映】

サンフレッチェ広島 山出コーチ

長時間ありがとうございました。

私どもが申しあげました貢献活動がサッカー専用スタジアムの基盤に、もっと人が集まるような空間を醸成できるような、且つ、そこで色々な方達に今申しあげました活動ができれば、本当に大きな夢を与えることになると思います。

長時間ご清聴ありがとうございます。

三浦会長

ありがとうございました。

ただ今の説明について、何かご質問等がありますでしょうか。

高木委員

ただ今のお話の中で、広島市の子ども達のために色々と尽くされている、ご貢献とそれから子どもの未来のために色々活動されていることは分かったのですが、これは広島のサンフレッチェのみでなくて、日本の中でサッカーを目指している街がございしますが、そこでも皆さんやられている内容ではないかなと思ったのですが。広島だけが特別に秀でてやっているのか、一つその辺を伺いたいと思います。

サンフレッチェ広島 山出コーチ

ご質問ありがとうございます。

今おっしゃいましたように、色々なＪクラブのホームタウンがやっておられます。ただ抱えております人口という部分であれば、広島の活動は全国の見本になるようなということで評価をいただいております。ただ、人数であつたりとか、頻度に関して言えば関東・関西圏に数では勝てないですけども、子ども達に夢を与える活動であれば、今のようなことで多くのＪクラブの見本になるような活動で先駆者としてやらせていただいております。

加藤(義)委員

社会人としての自立とか、豊かな人間性とか、スポーツを通じて育てようというのは、サッカーのみならず、先ほどトップスひろしまが出ていましたが、ハンドボール、バレーボール、それから野球ももちろんですが、色々なスポーツで子ども達の人間性の育成をお手伝いしようという活動は、各種スポーツの中で盛んでございます。広島は特にトップスというトップリーグに入っているチームが多いものですから、その人達も加勢してくれるので、かなり色々な努力をしていると思う。サンフレッチェが一番派手にやっているのではないかな。派手という言葉が悪いですが、幅広くやっておられるのではないかな、ということをおちょくと補足いたします。

永田委員

さらに補足させていただきますと、トップスひろしまは、先ほどおっしゃったように、8競技9団体でございまして、その中で色々な競技をやったり、サッカースクールとかをされているのですが、私もトップスの会議に参加させていただいているのですが、サンフレッチェは秀でています。

数としては、2大スポーツ、プロスポーツと言いますと、カープ、サンフレッチェ。カープのことを考えるとかなり秀でたというのが実態にありまして、さらにスポーツを通じてこういった事業形成をしていくというのは、かなり重要な部分だと思います。

そもそもスポーツというところから入っていく必要があると思うのですが、スポーツ自体、以

前、体育ということで、学生達、生徒達は初めてスポーツに向き合っていたもので、そうではなくて、海外ではスポーツ＝リフレッシュと言いますか、コミュニケーションと言いますか、レクリエーションというかたちで活動するというのが元々のスポーツであって、体育というのは嫌なスポーツをやらされるのであって、先ほど動画で見させていただいたように、皆さん笑顔ですごく楽しくされていることに、非常に私も感銘を受けた部分もありまして、やはり何かスポーツを、何かを通じて色々なコミュニケーション、今、経済産業省が言われている中で、社会人として一番必要なものはコミュニケーション能力だというふうに、だいたい知が必要だと言われているのですが、そういったコミュニケーション能力を育むうえで、小さな頃からスポーツを通じて、スポーツというコンテンツを通じてやっていくというのは重要なので、さらにそれをサッカーでやっていくことは非常に重要なことではないか。ある意味、広島としては誇れる部分があるのではないか。以上です。

三浦会長

私の方から一点ですが、子ども達が非常に笑顔になっている姿を拝見したのですが、一緒に来られている親御さんの方にもやっぱり色々な影響力とか、あるいは一緒になって育てるというものがあったりするのでしょうか。

サンフレッチェ広島 山出コーチ

ありがとうございます。まずは、教えるという立場ではなく、私達が一緒に楽しむ。先ほど一部見ていただきましたけれども、先生方もお父さん、お母さんも一緒に体を動かしましょうよということなんです。昔だと指導者が立っていて、理不尽な声掛けがあってということもありましたが、今は供に体を動かすことによって、自分達が楽しかった、子どももまたやりたいということの繰り返しをやっていきます。

もう一つは、こういう活動をすることによって、サンフレッチェ、全部サッカーに取り込むんだと、全くそんなことはございません。なぜかと言いますと、こういう小さい年代に他のスポーツ団体が足を運んでおられるかというところではないですね。全国でJクラブ、サッカー協会が色々な子ども達の取り組みをしているというのは、全部サッカーに取り込もうというのではなく、スポーツをする、運動好きの子ども達がいる、広がることによってその中でサッカーを選んでいく。先ほど男の子が僕はプロ野球選手と本音を言っていました、それも全然ありだと思うんですね。サッカーのコーチ達に関わることによって、スポーツの楽しさ、人と関わることの楽しさが分かって、じゃあ僕はやっぱり野球をする、全然OKだと思います。そういう小さい年代への取り組みが、私達の取り組みの礎だと思っています。できればその中から、サッカーをする、サポートしてくれる子が増えてくれればと思います。

三浦会長

ありがとうございます。

鵜野委員

個人的に日頃感じていることですが、サンフレッチェ広島の選手は、見た目は別にして、非常に礼儀正しいですね。それをやっぱり子ども達は常に見ているし、やっぱりサッカーだけ上手くなればいいのではなくて、人として人間形成に力を入れられてやっているところは、今後ともぶれないようにやっていただければいいのかなと、これは常日頃感じていることであります。

三浦会長

ありがとうございました。

それでは、今のを受けて次の議題に入らせていただきます。

広島県のまちづくりにおけるスタジアムの位置づけということです。これまでのお話の中で、広島県、広島市のまちづくりの考え方について、どのような状況になっているかということについて、それぞれメンバーの中でもかなり認識の差もありました。そういった中で今回は、それぞれの所でどのようにまちづくりが行われているのかということについて、説明をしていただくようにしています。最初に広島県の方からお話をいただこうと思います。準備をお願いします。

広島県 友道課長

広島県地域政策局都市圏魅力づくり推進課長の友道と申します。よろしくお願いします。説明は着席にてさせていただきます。

本県のまちづくりの基本的な考え方、本県の県政運営の方針と言えるかも知れませんが、これを取りまとめましたものが、ひろしま未来チャレンジビジョンでございます。この内容についてご説明させていただきます。それではお手元の資料に基づきまして説明させていただきます。

まず1ページをお開き下さい。このビジョンは本県をとりまく社会経済状況を踏まえ、おおむね10年後を展望し、本県が直面している課題や今後深刻な影響を受ける恐れがある問題に対して、有効な手立てが講じられない場合に予測される将来を明らかにしたうえで、目指す姿、将来像でございますが、これを描きこれを実現するための取り組みの方向や戦略を示すものとして、平成22年10月に策定いたしました。

2ページをご覧ください。基本理念を将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現といたしまして、これを実現するため、「人づくり」、「新たな経済成長」、「安心な暮らしづくり」、「豊かな地域づくり」の4つの政策分野ごとに目指す姿を掲げ、本県の「強み」を最大限に生かして様々な挑戦を行っていくこととしています。

3ページ以降は、その4つの政策分野ごとの将来像や目指す姿、取り組みの方向が具体的に記載されておりまして、本日は、スポーツやまちづくりに関する部分についてご説明させていただきます。この関連する部分につきましては、資料の中で太枠で囲った部分でございます。

それでは3ページをご覧ください。まず、人づくりの分野につきましては、中段の太枠囲みの目指す姿、「人が集まり定着する環境整備」でございます。これは広島県の魅力にひかれ国内外から人が集まるとともに、広島県で育った人が県内に定着する環境が整っていることを目指す絵姿としております。本県の持つ強みといたしまして、中四国唯一のプロ野球チーム、プロサッカーチーム、プロオーケストラがあることを掲げておりまして、4ページの取組の方向でございますが、県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信に取り組むこととしております。

5ページをご覧ください。新たな経済成長の分野につきましては、観光の観点から目指すべき絵姿といたしまして、国内外から訪れる多くの人々に感動と癒しを与えるとともに、県民にとっても世界に誇れる観光地となっていく、ということを掲げております。

6ページの取組の方向でございますが、魅力ある観光地づくりや観光情報発信の強化などにより、国内外からの観光客誘致に取り組むということにしております。

続きまして、一つ飛びまして、9ページ、10ページをお開きください。豊かな地域づくりの分野でございます。都市地域の目指す絵姿といたしまして、機能的で魅力的な市街地や施設等が整備され、都市的機能が提供されていることを掲げておりまして、都市中心部への機能集約等によるコンパクトで利便性の高いまちづくりの推進に取り組むこととしております。

また、平和貢献といたしましては、世界で最初の被爆地として、広島県の国際平和の拠点化を目指し、被爆と復興の経験等を更に発展させ、国際平和の実現に向けて積極的に貢献していくこととしております。

以上、簡単ではございますが、ひろしま未来チャレンジビジョンに掲げております関連する部

分について、ご紹介させていただきました。

三浦会長

何か今の部分で補足説明が欲しいところはあるのでしょうか。

高木委員

戦術的に何をしたら、あれをしたらいいという項目は分かるのですが、トータルで総合的なデザインというか、ちょっと何か見えないような気がする。どのような県をつくりたいとか、戦略的な。

広島県 友道課長

これは、おおむね10年後を見通したチャレンジビジョンということで、大枠のものをつくっておりまして、毎年毎年、県政運営基本方針ということを経済財政会議という知事の諮問機関がございまして、そういったものを通しまして、毎年毎年の基本方針を立てて、それを次年度の予算に結びつけてステップを図っていくということです。そこについては細かい部分になりますので、今日は説明を省略させていただきましたが、そういったことがございます。

永田委員

単純にですが、スポーツというコンテンツを広島県全体で見た場合、どのように活用していくかというのが見えない。

観光とか人が集まる場所を整備する形であって、認識としては、プロサッカーチームがあって、この中で述べられていますが、スポーツ自体、どういうコンテンツ、そのコンテンツ自体を県の中でどう捉えられているのか、ご存知の範囲内で教えていただきたい。

広島県 友道課長

すいません。ちょっと詳しくない部分もありますが、スポーツというこれはプロ野球、プロサッカー、それからトップスとか色々ありますが、プロのチームがございます。そういったところが、ここにも書いておりますように、本県の持つ強み、この強みというのは当然伸ばすべき部分でございまして、先ほども少し触れましたが、県内の文化・芸術・スポーツ資源、これは、世界的な知名度というか、広島にとって非常に強みであるということが知られております。そういったものを活用して、本県の魅力発信につなげたい。という部分で色々なことをやっていきたいということですが、ちょっと細かいことについては、それぞれの局にまかしますので、承知していない部分があります。申し訳ございません。

野村委員

サンフレッチェができた時に、竹下知事の時代だったんですけど、竹下知事がサンフレッチェをつくるときに色々と話した中で、アメリカの地方の中核都市には3大スポーツがある、野球、アメリカンフットボール、バスケットボール。この3つがなかったら地方の中核都市でないと。だから広島にプロのサッカーチームをつくりなさいと言っていて、官民一体となっていかにできた記憶がある。そういうことがありましたので、皆さんご存知とは思いますが、理解しておいていただきたいと思います。

小谷野委員

高木様の質問と似たようなところがあるのですが、広島市ですとスポーツ振興計画というのがありまして、私もその数値目標の中の一つにトップスひろしまの試合に市民の半分以上が行くよ

うにしようとかですね、数値目標のようなものが市の方で決まったものが各種実施しているのですが、県の方ですと、このようなスポーツ振興計画のようなものに該当する計画というのは何かございますでしょうか。

広島県 友道課長

本県のスポーツを推進しておりますところが、教育委員会のスポーツ振興課というところがございまして、今日はちょっと出席しておりませんので、またそちらで伺いまして、また申しあげたいと思います。

加藤(義)委員

今の説明を聞きますと、スポーツを資源として扱っておられるようですね。広島のプロスポーツを。それは一つの広島に人を呼び込む、広島を活性化する資源だと、スポーツ資源ということで、本県の魅力を発信するというようなことになって、今は出来上がった人気のあるスポーツを資源として活用しようということですが、私達はスポーツをどのように育てていくか、資源づくりの方になるのかも分かりませんね、見方によれば。そういう意味では、ひとつスポーツによって力を付けたいということについては、どのように考えるかなというのは、また思いは違っても聞かせていただければと。

三浦会長

次に広島市の方に入りたいと思いますが、前段として先に福岡市のものについて、私の方で用意したものを見ていただければと思います。

当時、松井市長が語られたことについてお話を掻い摘んでするのですが、現在、今の県の方の話でもありましたが、委員の方から戦略的な要素が見えないといったお話があったと思います。

実は世界的な動向ですけれども、都市というものは、安穏とはしてられない状況があって競争しているところがあります。

そういったことで、最近まとめられた福岡市のプランです。2つあります。後半に付けております、福岡市基本構想というのがあります。これがまずベースになっている訳です。

目的というところを見ていただきますと、最初のところは一面的な要素について述べていますし、歴史的な背景を述べています。そういった中で先人たちの叡智とひたむきな努力によって九州の中核都市として、先ほど、地方の中核都市であれば、プロスポーツのチームがあってしかるべきとのご意見もありました。そういった中で九州の中核都市としてたくましく成長してきましたと。昭和62年には「海」と「アジア」を都市像として掲げた「福岡市基本構想」を策定し、他都市に先駆けて、ここですね、アジアに開かれたまちづくりを進めてきました。ここでまず、福岡は他都市と違った先駆的なことをやったことが述べられています。そして、いまや、経済、行政、情報、教育、文化などにおいて広域的な機能をもち、福岡都市圏はもちろん、九州全域の発展に寄与しています。ということで、福岡というまちは福岡市を中心とした都市圏、さらには九州全域というところで大きな責任を持っているし、その発展に寄与しているということが述べられています。

こういったことの背景や目的にですね、次のところですが、いつの時代にあっても、市民一人ひとりがその能力を十分に生かし、希望と生きがいを育んでいく都市であり続け、独自の文化を生み出し、日本、アジア、世界の平和と繁栄に貢献していく。そして、この素晴らしい都市を、未来を担う子どもに引き継いでいきたいと考えて、こういった構想を立てられています。都市像としては、先ほどの県のキャッチとよく似ているのですが、「住みたい、行きたい、働きたい」にプラス具体的なターゲットを意識するものとして、「アジアの交流拠点都市・福岡」というのを挙げています。

これは先ほどのところで、アジア、それからアジアに開かれたまちづくりがあったように、他の都市とは違った個性をこの部分で得ようとしていることが読み取れます。

こういったことを考えて、4つの内容でこういった都市であるということが掲げてあります。そういった都市像を受けて、4つの要素でこれからのことが書いてあるのですが、これらは基本構想ですので具体的な考え方だけの状況です。

実際にそれを政策として落としたのが、もう一つの資料の政策推進プランになります。これも一部だけ資料を用意していただいたのですが、はじめにというところにおいて、背景的なところが書かれています。日本の国の状況がそこで述べられているわけですが、人口減少社会が到来している。それから、これは昨年から今年にかけて作成されたので、まだ景気低迷というのが残っていますが、長引く景気の低迷、都市間競争の激化など、社会経済情勢が大きく変化している。福岡市においては、将来人口は当面増加していくことが予想されているものの、少子高齢化の進展などにより人口構造は大きく変化し、働き手・担い手は減少し、逆に高齢者など支えられる世代が増加していきます。これを財政運営の面から捉えると、市税収入等の一般財源の大幅な伸びが期待できない一方で、社会保障関係費は増嵩していくことになります。加えて、公共施設等の大量更新期の到来に伴う財政需要の増大など、市政運営を取り巻く環境は厳しさを増していくということで、安穩とはしていただけないと認識しています。

そういった中で、「住みやすいまち」と評価される福岡市の魅力や活力を維持し、将来にわたり発展させていくためには、市民生活の質を高め、そのことが人と投資を呼び込むことにより、都市の成長と税収の増加を図り、さらに生活の質が高まるという好循環をつくっていくことが必要です。

これまでこういったものは比較的綺麗事を書いてあることが多かったのですが、福岡の場合は、はっきり都市を経営的な側面を見て、税収をやはり増やさなければ、税収を増やすことが生活の質を高めていくことだと言っています。そういった好循環をつくるべきだと言っています。ですから、その次のところには、市民生活の質の向上と都市の成長にとって、より必要性が高い施策事業に重点化を図って、反対に今の時代に合わなくなったものや優先度の低いものは見直す。よく選択と集中という言葉が使われていますが、そういったことをしていこうということを書いています。

今後4年間で何をするかということで、今回ここに示した「政策推進プラン」をつくった。もう一方で、財政健全化の取り組みを示す「行財政改革プラン」を策定されています。この2つによって、その下の絵にもありますように、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市・福岡」を実現していくということで、目指すべき都市像、ここに書いてある、アジアの中でリードする都市というポジションを得ようとしている訳です。

そのあと総論があるのですが、ちょっと飛ばしていただいて、6ページを見ていただくと、かなり将来的な状況を踏まえて、姿を見通している場合があります。先ほどの人口についても、しばらくは増加をするが、生産年齢人口は横ばいで推移していく。年少人口については、10年間は微増だけでも、その後は減少していくし、高齢者の人口は年々増加していく。15年後には4人に1人が高齢者になっていくと書いてあります。

それから、安全・安心を見ていくと、マイナス面に触れている。都市環境等への不満足度として、第1位として、市民のマナーの悪さ、あるいは犯罪の多さ、といったマイナス面も挙げています。そういった現状と課題を踏まえてやろうとしています。

さらに次の7ページ、地域経済についても、依然厳しい雇用情勢にある。就業機会が少ないということで不満がある。その一方で大学・専門学校、若者、クリエイティブ・エンターテイメント産業の集積をしているし、実験的な事業も行われやすい都市である。それらのことをずっと述べています。

都心というところだと、都市間競争の激化、都市活力を牽引する都心部の機能強化・魅力の

向上が不可欠であると挙げています。

かなり厳しい状況を踏まえて、それから将来像を見て福岡は何をすべきかということはかなり考えている様子が、こういった資料からも伺えると思います。

広島においても同じような考え方では進められていますが、ここまではっきりとは描かれていない部分もありますが、次に「世界に誇れる『まち』の実現に向けて」ということで、市政推進に当たっての基本コンセプトを見ていただければと思います。

これは平成23年、一昨年の12月に松井市長が主要施策の方向性を示すということで出された基本コンセプトです。福岡の場合はアジアをリードするということでしたが、広島の場合は、世界に誇れるというところを挙げております。アジアだけでなく世界中を見た中で、そこに対して誇れるまちを是非つくりたいと考えられています。

1ページに、この基本コンセプトが何かということがはじめに触れられています。「世界に誇れる『まち』の実現に向けて」というのは、広島市、本市が目指すべき「まち」の姿と、その実現に向けた基本的な考え方を示したものです。これを踏まえながら、毎年度編成される政策予算等をつくっていくということです。

目指すべきまちの姿とは何か。市民そのものが「世界に誇れる『まち』」にしていきたい。「世界中の人々が一生のうち、一度は訪れてみたいと思う『まち』、すなわち広島には世界中の人が自分の人生の中で一度は行きたいと思えるような都市にならないといけない。あるいは、そこに暮らす私達そのものですが、「そこに暮らす人々の生き生きとした営みがある『まち』」であるということです。そういった生き生きとした営みがあるからこそ、訪れる人々に対して、他では得られない感銘を与えられるはずだとあります。

そのあとには被爆体験のことが書いてありまして、「平和の尊さ」を体現する「まち」となっている。このあと、誰もが「生きることの素晴らしさ」を心と体で実感できるようにすることを目指します。おそらく先ほどスポーツというものも実はこういったところに関係している。すなわち、スポーツを通じて自分が生きていることが素晴らしいという気持ちを持つ。あるいは人と何か、チームですと協力し合ってすること、このことについて素晴らしいと思うといったことにつながるのではないかと。そして、そういった「まち」をつくるには何が必要かということで、3つの要素の展開を掲げてあります。

土台をまずつくらなければいけないということです。先ほど福岡市の方では税収という言葉も挙げていました。市税のことですね。やはり広島においても当然必要な視点です。ないものを触れるようなことはないです。とにかく土台をつくらなければならないということです。中枢都市である広島市は、県や近隣市町との連携の下、地域力を発揮し、市域のみならず、広島県全体の活力を生み、さらには中四国地方の発展を牽引する存在とならなければならない。そのための土台は、地域経済の持続的な発展により実現する「活力にあふれにぎわいのあるまち」ということです。それになるにはどうするか。地域で繰り返し投資が行われることが必要だと掲げてあります。新しい投資をし、それによって地域での雇用が生まれ、新しい商品・サービスが生み出され、そして新しい価値が生み出されていくと、さらなる投資を生むだろうということです。停滞ではダメだということです。先に進むべきだということが書いてあります。そうしてヒト・モノ・カネが循環していく。このことによって、新しい雇用を生み、企業の生産性も向上し、最終的には市民サービスのための財源も確保される。市民サービスのための財源が確保できれば、ちょっと飛ばしますけれども、結果的には市民サービスについても良くなることが触れられています。

イのところでは「市民が生き生きと暮らすためのステージづくり」です。地域経済が活性化していくと、生活の質も向上していく。そして財源がある程度確保されますので、保健・医療・福祉・教育の充実、そしてスポーツ・文化芸術の振興、地域資源や特性を生かした地域起こし、安全で安心な地域社会の形成といったことができる。そういったことができていくと、仕事も安定し、働きがいもあって、介護や医療に悩むこともなく、安心して子育てができる、家庭でもく

つるげる、そして元気にスポーツができる、あるいは文化芸術も鑑賞できる。こういう暮らすことが良くなる。暮らしが良くなると、世界から人が来たときに、広島が素晴らしいまちと思っていただける。

世界から人を招くということは、次のウにもつながる訳でして、まず広島そのものが世界のどこよりも、2行目ですが、平和の心が育ち、街に平和が香る「まち」でなければならない。これを実現化するために色々な取り組みがされていますが、世界中の人が一度は来てみたい街並は、来ていただいた中で、そういうことを通じて平和への祈り、あるいはこの祈りを世界中に広げていくことができる。それこそが広島の使命であろうと触れられています。当然、被爆の実像に触れるチャンスも増えていく。広島というまちを考えた時に、世界中の人に対して誇れる「まち」になることは、世界の人に来ていただける、行きたいと思う「まち」にならないといけない。その中には、活力は当然ベースとしてあったうえで、市民、私達が生き生きと暮らし、そして広島のマチの一つの特徴である平和ということを世界に広めていく、こういった「まち」になっていくことを松井市長が言われています。

具体的な内容になっていくと、4ページに触れられています。そういった中で、都市機能の充実強化ということが最初に挙げられています。「活力にあふれにぎわいのあるまち」にするには、都市機能を充実させなければならないというところです。そこでは、一番上のマルの2行目ですが、都市機能の拡散を抑制し、適切な配置による集約型都市構造の形成を図ることが必要だと。そして、都心においては、活力と求心力の源となるような機能を集中し、充実強化を図りたい。それ以外のところでは、地域ごとの特性や将来性を踏まえつつ、既に集積した機能のうち、生かすべきものを選択し強化します。これまでの議論の中で、都心にという話と現在の場所、他の場所でということがありますが、どちらにおいても意味があることだと思います。都心ですと活力と求心力の源となるような言葉がありますし、都心以外においてもその地域の特性、将来像を踏まえて、今の機能を生かしていくという考え方もあることが触れられています。とにかく、市全体としての機能強化、活力とにぎわいを生み出す、こういった基盤をつくらないといけないということがしっかり書かれています。そして、都心においては、広島の「顔」としての求心力を一層高めて、ヒト・モノ・カネの県域を越えた大きな循環を生み出していく必要があるだろうということが触れられています。

3番目のマルのところでは、ただこういったことをするためには、最初の頃の議論で、スタジアムを造った時にアクセスについても指摘がありましたが、都市構造、こういった都市をつくるためには、公共交通を中心とした都市内交通の円滑化は必要だということ。それからその下です。マルのところでも、近隣市町の経済・文化交流の活性化、あるいは国内外・世界とつながっていくためには、活力とにぎわいを生むことを含めて、都市の内外を結ぶ陸海空の交通ネットワークを強化していかなければならないということが触れられています。その辺りも全部関係してくることだろうと思っています。

スポーツそのものについて、具体的に触れられているのは、9ページになります。ここでは、未来を担う子どもの育成、子ども達が未来を担っていきますので、そういった子ども達をしっかり育成していくこと。これが広島の発展の礎となるということです。子どもが幸福に暮らし、様々な個性や能力を伸ばし、自立性・社会性を身に付け、自立した大人へと健やかに成長できるよう、社会全体で子どもの成長を支えていかなければならないということです。学校教育だけが子どもを成長させるのではない。社会全体で見えていかなければいけないことが触れられています。

それから次です。スポーツ・文化芸術の振興ですけれども、スポーツの意味がそこで触れられています。体力向上や生活習慣病の予防、ストレス発散など健康の保持増進、当然そうですが、それだけではなく、地域社会の一体感や活力が醸成され、明るく豊かな社会の形成に寄与する。こういった位置づけもされています。野球やサッカーなどの観戦に市外・県外からも多くの人が訪れるように、スポーツには高い誘客力もあることから、これについてもしっかりと振興を図る必

要がある。

それから次です。今日のお話にもあったように、幅広いスポーツ・レクリエーション活動の促進や、ジュニア選手の育成・強化などに取り組んでいくとともに、トップス広島などと連携して、市民がトップレベルの選手と触れ合い、地域一体となって応援・支援してまちの活力となるよう、スポーツを通じたまち起こしに取り組む。さらに広島を代表するプロスポーツチームの広島東洋カープやサンフレッチェ広島が、しっかりとプレーでき、観戦する人を増やすことができるよう、その環境整備に努めるとともに、国際的・全国的なスポーツ大会の開催・誘致に取り組むことが掲げられています。

こういった中で他にもいくつかある訳ですが、世界に誇れるまちの実現に向けてというところで、今回、私達が議論することになっているサッカースタジアムというものをスポーツとしてかなり位置づけが中に含まれている。単にスポーツというだけではなく、それを大きな経済的な活動まで広めていく、そのことが広島の基盤を強くし、そして世界から人を招き、広島に課された大きなテーマである平和の発信につなげていくべきだということが、松井市長のメッセージから読み取れるのではないかと思います。これは考え方をまとめたものです。これを基に実際の計画におとしていかれている。それが今日の説明資料としてある、広島市都市計画マスタープラン。これは今、改定中ですので改定案となっています。具体的な内容について担当の方から説明をお願いします。

広島市 藤田課長

広島市都市計画課長の藤田と申します。それでは、資料3-2の「広島市都市計画マスタープラン（改定案）の概要について」説明させていただきます。

改定案というものですから、こちら現行のマスタープランでございまして、平成13年1月に策定したものがああります。これは平成13から10年経って人口減少が進んだり、高齢化社会が進展したりとか、諸々の社会経済情勢の変化に対応するために、今、改定作業を行っているところです。昨年度から都市計画審議会、あるいは色々な市民の方々にご意見をいただきまして、この7月に都市計画審議会で答申いただきまして、もうしばらくすると改定の作業が終わり、9月の中頃には公表することができると思っています。今はそういう状況です。今日は先月の都市計画審議会に提出した時の抜粋版を持って来ています。

まず都市計画マスタープランとはどういうものかという話です。第1章の目的、都市計画の視点に立った長期的な都市づくりの目標やその実現に向けた方向性を明らかにし、都市づくりの総合的な指針として活用するものです。右の方に概略図がありますが、先ほど福岡市の話でもありました、広島市の基本構想があります。広島市の基本構想に即したかたちで都市計画の分野から、こちらの都市計画マスタープラン、都市計画に関する基本的な方針とも申しますが、そちらを作っております。

位置づけでございまして。今申しましたように「広島市の基本構想」あるいは「広島圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」などの上位計画に即して定めたものです。

次に役割の方に、都市計画の決定・変更の指針として活用しております。長期的な都市づくりの指針ですから、概ね2030年（平成42年）の長期的な目標としております。

エリアといたしましては、都市計画区域に重点を置きながらも、それ以外の都市計画区域でないところも含めておりまして、広島市域全体を視野に入れて対象としています。

第2章都市の現状と課題ですが、本編には(1)～(6)まで掲載されているのですが、1、2を重点的に説明させていただきたいと思います。

まず人口減少・超高齢化社会の到来ということで、日本の総人口は平成22年ぐらいだったと思いますが、広島市は27年頃をピークに人口減少局面に入ります。高齢化率も平成32年に26.1%、4人に1人は高齢化になる時代が来ると考えられます。

さらに(2)厳しい経済状況と財政の悪化ということで、人口減少、財政の収入、そして超高齢化社会という色々な社会問題から厳しい経済状況を抱えております。さらに全国的な社会資本の老朽化も進んでおって、今後、一定の社会資本サービスを確保するためには、施設の計画的・効率的な維持管理を進める必要があるということを書いております。

こういう都市の現状と動向を踏まえて、広島市としてこれからどのような都市づくりを進めていくかということをおの右の方に、広島市の都市づくりの課題ということで挙げております。同じく本編には(1)～(7)まで挙げておりますが、特にこの四角で囲まれているところを中心にお話いたします。

まず第一番目に平和都市の建設ということで、ヒロシマの願いである核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指す「まち」であり続けるため、被爆者の体験や平和への思いを次世代の市民に伝えけるとともに、多くの人々に広島に来てもらい、平和への思いを共有してもらうことが重要と考えております。

さらに(2)ですが、中四国地方の中核都市としての役割の発揮。先ほども話に出ましたが、製造業で培われた優れた技術力を生かして医療・福祉などの成長産業を育成するなど、都市型サービス産業を振興し、都市機能の充実・強化や活力の向上を図っていききたいと思います。

さらに、都市間競争という言葉が先ほど出ましたが、これからの低経済成長や人口減少等のマイナス要因の下で、中四国地方の中核都市として活力を維持・向上していくためには、魅力ある都市で、国内外の企業や人々に選ばれる競争力のある都市づくりを進める必要があると考えています。

(7)観光・文化・国際交流の振興による交流人口の拡大と定住人口の確保ということで、人口減少で人が少なくなっていく中、こういった交流人口に活路を求めていこうということで、文化・スポーツ観光等を含めた観光の振興と都市ブランドの構築により、交流人口の拡大と定住人口の確保を図る必要があると考えています。

第3章都市づくりの目標と指針ということで、広島市基本構想に即して定めるこの都市計画マスタープランですが、広島市が掲げています都市像「国際平和文化都市」というものを実現するために、都市づくりの目標として、“活力”、“魅力”、“快適性”という三つの視点で都市づくりの目標を設定しています。

その下に都市づくりの目標と、①～⑨まで括弧でくくってあるのですが、①のヒト・モノ・カネの広域的な循環を生み出す求心力のある都心の形成、この①②③が活力の分野のものです。そして④～⑥が、広島ならではの資源を活用した都市づくり、こちらのグループを魅力のグループとしています。⑦～⑨が子どもから高齢者まで、誰もが快適に暮らせるまちづくり、こちらが快適性のグループの目標となっています。

次のページをめくっていただきまして、第4章めざすべき都市構造です。市街地の無秩序な拡散を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に居住機能、生活サービス機能などを集積する“集約型都市構造”への転換をめざします、ということをおの掲げております。この集約型都市構造による効果といたしましては、人やモノの移動距離の削減と自家用車から公共交通への転換が進み、エネルギーの使用量が削減されます。あるいは高齢者、障害者等の生活しやすい環境が整うほか、道路等のインフラ施設の維持・更新や福祉サービスの提供などが効率化され、市の財政負担の軽減にもつながると考えております。右の方が都市構造転換のイメージですが、真ん中の方に色が濃くなっていくという意味で、どんどんと機能が集約していくというイメージを表したものです。

次に第5章です。分野別の方針ということで、第4章めざすべき都市構造、これらを分野別にどのようにして進めていくかという方針です。本編には土地利用や都市施設など色々書かれておりますが、今回は6章を紹介させていただいております。

都市の魅力向上の方針、この中で四角の一番下の(1)です。地域資源を生かした交流・レクリエーション空間の整備というところで、人々が憩い、交流する魅力とにぎわいのある都市環境の

形成というのを方針として掲げております。具体的にはということで、右の方に飛んでいただきまして、四角の中のマルです。公共空間や有形・無形の地域資源などを有効に活用した新たなにぎわいと交流の場の形成により、都市の魅力づくりを進めます。ということを都市計画マスタープランの中で掲げております。

そして第6章ですが、これからのまちづくりは、行政だけで進めていくことはなかなか難しいということで、(1)各主体（住民、企業、行政）の役割ということで、住民、行政、企業が協働・連携してまちづくりを進めていこうではないかということで、(1)にそういった役割、あるいは(2)で協働・連携するための環境づくりに触れております。

それらの総合的な施策展開の推進ということで、都市計画のようなそういった整備をしていくには、経済振興、福祉、子育て、文化・芸術など関連分野とも積極的に調整・連携して進めていこうということを書いております。

さらに、(2)に本市を含む近隣市町とも連携しながら、一体的に発展するよう広域的な観点で取り組んでいきたい、ということを都市計画マスタープランに書いております。以上でございます。

三浦会長

今の説明について、何か質問等がありますでしょうか。

永田委員

こちらに書いてあります、スポーツ観光という言葉ですが、定義としてスポーツ、要するに県内・県外から来られると言いますか、スポーツを観戦するために来ることをスポーツ観光であるというふうに定義されていると認識してよろしいでしょうか。

広島市 藤田課長

そうなります。

永田委員

どんなイベントとか、そういったスポーツも含めて、要するにプロスポーツを観戦するためだけでなくそれ以外も。

広島市 藤田課長

もちろんそうです。交流人口・定住を増やすということが大命ですので、一件だけではありません。

永田委員

はい、分かりました。

川平委員

先ほど三浦会長から説明のありました、「世界に誇れる『まち』の実現に向けて」の9ページの下に、スポーツ・文化芸術の振興のところで、サンフレッチェ広島が、しっかりとプレーでき、観戦する人を増やすことができるよう、その環境整備に努めるとともに、国際的・全国的なスポーツ大会の開催・誘致に取り組みます。かなり明確に環境整備のことが書いてあります。今ご紹介いただいた都市計画マスタープラン案の概要の中には、そういった記載がないのですが、そことの関係はどうなっているのでしょうか。

広島市 藤田課長

この都市計画マスタープランというのは、目標年次が平成42年ということで、広島市の基本構想という将来的に広島市がどんなまちになるかというものを都市計画の分野でどんな都市像を目指すか、長期的な都市像を設定するもので、具体的なプロジェクトを羅列しているプロジェクト集ではないのです。あくまでこれからの将来的な20年、30年先、どんな都市像を目指していくかというものを決めているもので、具体的なプロジェクトまで踏み込んだ言及はないということをご理解いただきたいと思います。

川平委員

そうすると、この基本コンセプトの次にマスタープランをつくられて、それについても次の施策というものが、具体的なものが形成されることになるのか。

広島市 藤田課長

あくまでこれは長期的な指針ですから、次のステップで何らかの計画、ステップかと思われます。

高木委員

今の続きのようなことだが、この文化、芸術の振興ということの前に、サンフレッチェ、オーケストラ、カープの3つのプロの集団がありながら、一回も行ったことがない、経験したことがないという子どもがたくさんいると聞く。それは義務教育の中で、もっと文化教育を重要視して、文化的要素をみんなに公平に義務教育の間に経験させることは不可能なのではないでしょうか。恵まれた子どもは何回も行って、そういうチャンスに出会えるが、広島に居りながら一回もカープに行っていない、オーケストラを聴いたことがない、サンフレッチェに行っていない、そういうことがないようにすることも、将来の若い人達は広島のために働く人達なのですから、その辺がちょっと加味されてもいいと思います。

三浦会長

所管が違うので、回答しにくいのだと思うのですが。

広島市 藤田課長

すみません。

塚井委員

マスタープランの内容については、こういう形で整理されたということは聞いておりますが、この点はどうお考えなのか、いい機会ですので伺っておきたい。このまちを外から見ている人にはどう見えるのでしょうか。マスタープランというのは、それは考えるべきではないか。野球の話になって恐縮ですが、例えば東京だと逆に広島ファンよりも、広島カープファン、東京の方が熱心だというような話を聞きます。そういう意味で、スポーツに限らず、他のまちに出て行かれた広島の方、交流の要素を考えていくうえで、その辺りの層は一番期待できるはず。平和というキーワードも出身者ではなくても、このまちがどういう位置づけなのかということは、それぞれに他のまちに住んでいる方からも思いがあるはず。国際平和都市をめざすということは良いのですが、広島市のマスタープランは広島市の中で立てて大丈夫なのではないでしょうか。特にこのまちを考えると、先ほど福岡のご紹介もありましたが、あそこはそれでもアジアということを意識されていて、どういうふうにアジアからの見方というのが反映されているのか私も存じあげませんが、外からの目、広島に住んでおられた方の目、あるいは、そうではなくて平和というキーワ

ードで広島をご覧になる方々の所感、そういうものはマスタープランに取り込まれるようなメカニズムは持っておられるのでしょうかという質問です。

広島市 藤田課長

都市づくりの課題の中の観光・文化・国際交流の振興というところは、当然、国内外を意識したつくりにしておりますし、あと平和都市の話もあったのですが、広島歴史のことを思うと、なかなか平和都市ということ抜きにしては語れないということで、一番上に入れてあります。

三浦会長

今の質問に関連して、福岡の場合はアジアということ意識したときに、アジア圏の色々な企業が福岡に支社をつくったり、あるいは工場立地をするような意図を持って、いわゆる広報活動や誘致をかなりやっています。

そういった観点から言うと、世界に誇れる「まち」広島ということであれば、世界から見たときの広島のイメージがどうなのか、そういったことを踏まえて、それを向上させるような何らかの施策が必要だろうということだと思う。ただ現状の都市計画ですと、そこまでの視点はないのではないかと。松井市長が掲げたコンセプトもこれまでの流れの中でのコンセプトだろうし、また、今指摘されたような外から目線での評価とか、そこをどう高めるかまではいっていないかなと感じました。それをここで議論することではないですが、広島というまちを語るうえでは、市長のコンセプトにありますし、マスタープランにもあるように、世界との関わりは決して切ることのできない大きなものだと思っています。

鵜野委員

質問ですが、マスタープランの中に、都心部という表現と市街地という表現がありますが、市街地の範囲は、現在の市街化区域内を基本としてということですが、これは具体的に市街地、都心部の定義というものはあるのでしょうか。それとも何かこうイメージなののでしょうか。

広島市 藤田課長

ここで使っている市街地というのは、市街化区域ということをおっしゃって、都心部というのは、八丁堀、紙屋町の辺りをイメージしています。

鵜野委員

都心部は八丁堀、紙屋町ということですね。

三浦会長

駅の方も。

広島市 藤田課長

そうですね。広島駅から紙屋町。

加藤(義)委員

マスタープランは内容的には非常によく織り込まれていて整っていると思います。マスタープランの目標年次が2030年、あと17年後です。そういう意味で、今のマスタープランの目標に対してどう進めるかを至近年で考えた場合にどう取り組んだら良いのか少し分かりにくい。

いま福岡市の例が会長から紹介がありましたが、これは今後4年間に向けて重点的に取り組もうというのがあったから、そういうところから見れば、我々にとって迫力はあるが、2030年とな

ると都市間競争の様子も変わってくるだろうし、色々なものが変わってくるのではないかと思います。超高齢化だけが着実に進んで、あとはあまり変わって。そういう意味では、マスタープランに向けて着々と進んでいくという意気込みが欲しい。そういう中にサッカースタジアムも入ってきて、サッカースタジアムは数年後に造ってほしいと思うし、もうこの頃になるとまた形が変わってくるかもしれません。マスタープランは非常によくできているのですが、それまでに向けた具体的なプランというものを盛り込められるように私達も訴えていかなければいけないのかなという感じがしております。もう少し段階的なプランニング、まあ今から進められるのかも分かりませんけれども。

広島市 藤田課長

これは長期的なビジョンですので、これを基に順次、色々な計画ができていくと思います。平成42年までこのマスタープランをずっとということではないと思ひまして、今言われるように色々な経済情勢の変化、あるいはある時点で見直しもあると思っておりますし、現行のマスタープランも12年ちょっとで見直しをしておりますので。

野村委員

福岡の話が会長がされたのですが、サッカー界の中で、いま4万人のスタジアムを造る計画をしております、こういう市の中には入ってきておりませんが、そういう運動、計画もできつつあると聞いております。それから、東アジアリーグをやろうということで、アジアに向けての福岡ですから、韓国、中国、日本と。東アジアクラブリーグ、そういうものもやりたいと言っております。ちょっと参考までに。

山根副会長

私は広島市の基本計画の前の段階の、前の段階と言うか、ちょっと参画させていただいたのですが、広島市スポーツ計画の中では、新しいスポーツ王国、新広島スポーツ王国を目指しましょうと。旧広島スポーツ王国の復活ではなく、新しい時代のスポーツ王国広島を目指しませんかと。やはりスポーツは一つの文化になりまして、多様化している世界でもあります。もちろんプロスポーツの役割は大きいと思いますが、さらにさらにオリンピック競技以外、あるいは国体競技以外のスポーツも幅広く皆さんが競技している世界もますますそうなるであろう、そういう面での基本構想にはなっている。

三浦会長

今、県、それから市の方でまちづくりとして、今どのような状況にあるのか、というお話をいただきました。そういった中でスポーツというものが、まちづくりの中で大きな要素というかたちで捉えているとイメージできると思います。

そして一番明確なのは、市政推進にあたる基本コンセプト、世界に誇れる「まち」の実現に向けての中でも捉えましたように、スポーツが私達の社会、そこで育つ人々を豊かにするものである。あるいは多くの人々を招く力があるものだという位置づけがされていたと思います。そういったものを持つまちということが、世界に誇れるまちの実現につながるということがイメージできると思います。そういった面で今回私達に課せられているスタジアムというものをそこに関連づけて考えることができるのではないかと思います。

サッカースタジアムがあることによってどのようなまちが生まれるのかということについて、実例等をまとめたDVDを作成されているものがあります。今から上映していただこうと思ひます。

【DVD上映】

三浦会長

時間も残り少ないので、次の説明に入りたいと思います。

サッカーを通じた国際交流、先ほどのところでも国際的な関係性について触れておりますが、国際交流が行われている話もありますので、事務局から説明をお願いします。

事務局

事務局の先本です。着席して説明させていただきます。

配布資料の4をご覧ください。これはU-20、二十歳以下の女子ワールドカップの資料ですが、昨年8月、広島・宮城・神戸・埼玉・東京の5カ所で開催されました。

広島会場では、アメリカ・ドイツ・中国・ガーナの4カ国が予選を戦いましたが、優勝候補のアメリカとドイツが1週間前から広島にキャンプ入りしており、両チームから平和公園見学の申し出があり、献花等をしていただき、若い世代の選手たちに平和への思い・尊さを持っていただくことができました。特にドイツチームは日本に来る前から事前学習を行っていたらしく、広島に来る意義をしっかりと感じ、たいへん熱心に見学いただいております。

次のページをめくっていただきますと、このワールドカップの大会ですが、ただ大会を開催して終わりではなく、「レガシープログラム」ということで、その後にも残る地域の発展やサッカー普及などを財産、これがレガシーですけれども、財産として残す取り組みが行われました。広島でも、学生ボランティアや幼稚園・小学校をはじめ、地域の多くの方々にご協力をいただきまして、街をあげての大会の盛り上げや、選手との交流を図ることができました。選手たちには、大会運営以外の部分でも、レガシープログラム、平和公園見学、あるいはチーム練習への熱心な帯同で、広島のホスピタリティーも感じていただいたものと思います。

また、開催地に広島や宮城が選ばれたこともありまして、大会全体で「折り鶴プロジェクト」、全国で計15万羽を作成いただきましたけれども、「折り鶴プロジェクト」として、「未来への希望」をテーマにした数々の交流や啓発活動を行いました。この最後のページの一番最後の写真にもありますが、決勝戦後の表彰式では、アメリカが優勝したのですが、全国からの千羽鶴が表彰台にも飾られ、サッカーを通して平和の発信もできたものと信じています。

世界的に人気があり、たくさんの方が関わるサッカーの各種大会が広島で開催されることには大きな意義があり、身近に足を運び、感動・発信できる環境づくりは、広島においても大きな財産になると思います。

もう一つお配りしているもの、これは今月9日～12日まで広島で開催されました、今年で8回目を迎えます平和記念広島国際ユースサッカーのプログラムです。これを見ていただければ分かるのですが、18歳以下のユース世代に国際試合を通してのレベルアップを図り、また広島においてレベルの高い国際試合を身近に観戦できる機会をつくるとともに、彼らの若い世代の平和学習、文化交流も大きな目的になっております。平和記念資料館の見学等もこの大会のスケジュールに入っておりますし、「広島で行われる大会に参加できることは特別な意味を持ちます」と今回来日した1.FC（ニュルンベルク）の監督が開会セレモニーで発言されたこともとても印象的です。簡単ですが説明を終わります。

三浦会長

今の説明について、何か質問はありますか。よろしいでしょうか。

「エディオンスタジアムクラスで開催される大会」（資料5）の資料は特に説明はなくてよろしいでしょうか。

事務局

事務局の権田です。こちらは前回出させていただいた資料に追加した大会を入れておりますので、そちらの方をご確認いただければと思います。

三浦会長

そういったところで、今日用意した資料について説明を終えたところになります。

意見交換を今からさせていただきたいと思います。

最初に私の説明の中、今日の流れの中で3つの観点からということにしております。

最初の観点、都市の魅力向上ということです。福岡と対比しても、ちょっと出しましたけれども、魅力を高めていくことは今後のまちづくりにおいて大きなポイントになっています。そういった面で今回、私達の検討対象になっていますサッカースタジアムというものがどういうふうに位置づけられるのか、ということについて意見交換していきたいと思っております。

海外の事例等で出ておりました。そういった中で、とりわけ私が思うのは、他の部分にも関連しますけれども、人々の生活ということにも関わってきますし、これだけの規模の都市だからこそ、もしスタジアムができれば、新しい産業等にもつながっていくのかなとも思いました。そういった面で色々な魅力向上に大きく資するのではないかと思います、どなたかご意見等がありますでしょうか。

鵜野委員

スタジアムを通してのまちづくりというか、私の意見ですけど、都心部、先ほど都心部という表現がありましたけれども、活性化が大事だろうと思っています。

私は8年間デトロイトに住んでいましたので、デトロイトで起きた、人が外に流れていって、人気がなくなって、空地が増えて最終的に治安が悪くなったというのを見てきていますので、もちろん広島とデトロイトは全く違うとは思いますが、やはり街の中に、ど真ん中、ダウンタウンと言うのですが、そこに人が集まらない、また人が特に逃げていくことに対する危機感というものを持っておりますので、ぜひともまちづくりの中で、そこをネガティブなものになってしまうのですが、それを防ぐためにもスタジアムを、サンフレッチェ広島の力を有効に使うということをししないと、もったいないと思う。それを分散するのは、おいしいということになると思う。やはりそういったことも考えていかなければならないと思います。意見です。

三浦会長

それに対しての私の意見としては、広島市が今のまちづくり全体像で考えております、都心の部分とそれからそれ以外の部分、両方ですね、現在のスタジアムがある西風新都是大きな拠点としてつくろうとしている新たな街ですので、今言われたような本当の郊外という位置づけにはならないと思っております。ですから併せて考えていくべきだろうと思っております。現時点でどちらということはまだ議論していませんので、広島というまちにおいて、スタジアムは大きな要素になるだろうなということとしては受け止められると思います。

山根副会長

今までのお話を聞きまして、サッカースタジアムを整備することが、県、市のまちづくりの考え方に沿い、また広島の活性化にもつながるということは十分理解できました。

しかし、今後サッカースタジアムを整備するという議論にあたりましては、あくまで広島に活力を生み出す、あくまでも市民のために整備するもの、またこれからの子どものために夢のあるもので整備することが大切だろうと思います。

そして、先ほどの広島の基本計画の中の平和都市の論点、これは非常に重要な視点だろうと思

っています。

また、サンフレッチェ広島の経営改善という観点ではなく、広く県、市の都市計画の観点から、すなわち観光客の誘致、関連産業の育成、周辺地区の開発、県、市の広域的な活性化というものを踏まえた議論が大切だろうと思います。

加藤(義)委員

今までいい勉強をさせていただきました。一番初めの協議会の時にもちょっとお話ししたのですが、広島で今、私達の命題としては、球場跡地にどんなものができるか、とにかくサッカースタジアムをどこに造りたいかという命題があって、そういう意味で、今から絞り込みを行うためにも、現在、サッカースタジアムを造るような用地が市内の何処にあるのか、これは行政でないと分からないと思うのですが、それについては一度リストアップしてもらいたいなど。私達は空港跡地もある、広島駅の方にもあるとか色々なことは言うけど、ただ面積的にどうなのか、そしてそれは誰が管理されていて、どういう規制があるのか、一覧表がですね、今、協議も何もなくても現実の規制とか、広さとか、土地の状況とか、管理者とは分かるはずですから、できるだけ事務局に早く準備をしてもらって整理しておいてもらおうかなと。これは意見も何もなくても影響しないものですから。それで市と県に、あるいは事務局と一緒に作ってもらってはどうかかなと思ひまして、1回目には漠然と話したのですが、表みたいなのがあるのかなと事務局に対してと思って、ちょっと表を作ってきてみたのですが。

三浦会長

すみません。

ただ今日の段階では、具体的な場所についてはまだ言っていない。どうするかということは。それは議題としてはこの先にしています。

今日は、最初に私が言いましたように、県、市含めてのまちづくりの中で、サッカースタジアムがあることがどういう意味を持つのかという段階までですので、すみませんが、そこは当然次の段階では必要になってくるだろうとは認識しております。

加藤(義)委員

それは十分わかっております。しかし今、空き地がどれくらいあるかというのは、いつでも準備できるんですね。

三浦会長

ですけれども、それは今日の議論の内容ではないということです。

加藤(義)委員

次の宿題にしてもらえたらと。

三浦会長

そうですね。次回以降の議論の内容になります。

今回は、具体的にどこの場所だとは全く無しの中で、本当にスタジアムがもたらすもの、サッカーを通じての子ども達含めて人間形成という面で色々今日ありましたし、それから、まちづくりの中でも広島という都市規模、それから世界とのつながりのある都市としては、サッカーというのがいいコンテンツだろうということの認識ができたのではないかと私は理解しています。

そういったところで特になければ、そういう方向であるということが分かるのではないかと思います。

川平委員

スタジアムを造ることになると、いずれ場所の問題とか、経済合理性の問題はでてくるのですが、それは今日の議論ではないですから外しておいて、まちづくりの中のスタジアムの位置づけについて、私の意見を申しあげてみますと、やはりここに書いてある都市の魅力向上であるとか、精神的な意味づけというのがあるのですが、一つは地域のシンボルであり、地域社会のにぎわいとか、交流の一端をつくる、冒頭の説明もありました、地域のコミュニティーシステムとかそういったのは当然あると思います。特に低成長時代に入って長いのですが、少子高齢化の中で、また団塊世代が職場から地域に帰るという時代の中で、地域の中でのコミュニティー文化が大切になる。そういった位置づけにおいても、これはサッカーに必ずしも限りませんが、スポーツの施設というのは一定の効果はあるのかなと思っております。

それから都市の魅力向上という意味で申しあげると、やはり都市としての中枢機能を向上させる。また隣接の県・市から一度行ってみたいと思われるそんな都市に広島をしないといけないかな。それには、都市機能のレベルを上げる。具体的に言うと産業・商業にとどまらず、スポーツ・文化そういった機能を強化することが都市機能の強化につながると思います。

それからもう一つ、国際交流の観点で申しあげますと、広島と言えば知名度の高い都市ですから、そういった知名度を活かしながら、国際交流につながるような大会、今日紹介がありました、こういった使い方がまだまだあるのではないかと思います。以上です。

小谷野委員

意見と言いますか、先ほどのビデオに関して若干補足ですが、サッカースタジアム、特に複合機能の中でのホスピタリティゾーンというのは、これは海外でかなり重視されておりまして、国際交流の場としてのスタジアム、それから今ありました通りビジネス交流の場ですね。色々な経営者の間でネットワークを作ったり、あるいは新たなビジネスのアイデア・機会を創発する機会となったりとか、社交場として今、機能し始めています。

そして試合の無い日は、市民間の交流の場として使われている。そうした交流のゾーンとしてのホスピタリティ機能というのが極めて今、重視されていると思います。

そうした中で、スタジアムを造った後でどうやって国際平和都市を発信していくのかという意味においては、やはり定期的な国際大会の誘致・開催・継続の努力といったものが重要になってくるのだらうと思います。

前回の私のプレゼンテーションの中でも申しあげましたが、アンダー世代の大会ですね、海外で有数の国際大会に匹敵するものが広島でつくれないか。

あるいは、女子サッカーの大会ですね。アルガルヴェ杯のようなものが広島でできないか。

あるいは、チャリティーサッカーの大会の中で、クリスマスの時期でも、8月6日に近い時期でも、広島で世界を代表するようなチャリティーサッカー、サッカーレジェンドOB達を集めたようなものができないか。そういう仕掛け。

あるいはスポーツ FOR ALLという観点に立って、ハンディキャップサッカーですとか、ブラインドサッカーとか、そのような障害者の方々を含めた国際的な大会ができないかとか。サッカースタジアムを造った上で、今度は国際平和都市の発信につながるような国際大会の企画ができないかと考えております。

永田委員

広島市がおもてなしというかたちで、県内、県外、海外の方も含めて色々な方をこちらに来ていただくことを想定されてマスタープランの中で考えられる中で、やはりおもてなし、要するに来ていただいて楽しめるような場をつくっていくと。まさにスポーツの中では、グローバルなスポーツというのはサッカーという競技が一番世界中に広がっているスポーツであって、そのスポ

ーツを通じる、尚且つそのスポーツをするための状況、要するに平和である、過去の広島、こうした広島というものも含めて平和である、そしてスポーツ、そしてスタジアムという外国の方も含めてですね、広島の要するに大切さですね、というのをやはり知るためにスタジアムというのは必要であるかなと思います。

やはりブランド構築というのはやっぱり必要なのですが、むしろブランド構築、先ほどマスタープランにありましたが、ブランドは我々がつくるのではなく、皆さんがそういった形でブランドを認識して認知していただくことが重要になると思います。その中で我々そういった形をつくって最良のものをつくることによって、色々な方がそれをブランドとして認識する、ロイヤリティーという形で色々なものを見て、それぞれが色々な形をロイヤリティーと認めていただくということが必要になってくると思います。

スポーツビジネスという観点から見ると、今、日本にあるスポーツ、広島にも8競技9団体のトップスひろしまとの絡みも重要になってくると思うのですが、まずスポーツビジネスといわれるのはJリーグだけではないかと私は思っております。プロ野球は戦前、戦後60年以上の歴史はありますが、スポーツビジネスとは言えない。これは次回でも、次々回でもご説明させていただきますが、スポーツビジネスを本当にやっているのはJリーグ、最近では広島にも誕生しようとしているbjリーグ、NBLという2つのスポーツであって、ビジネスである以上はやはり色々な方々に来ていただいて、というのが重要な収入源であり、その収入源であるスタジアムを市税という形で、また色々な形で、その中に市の中に文化を造るのであれば非常に大きな活力になってくるし、魅力あるまちにもなってくるのではないかと、ひいては色々な市民の生活の質の向上につながってくるのではないかと感じておりまして、やはりスタジアムというのは考えていくべきではないかと感じました。

加藤(義)委員

やはり新聞にもありましたように、国際試合を観たいというのが国民の92%というのが新聞記事に出てましたですね。そういう意味で、今回、広島のサンフレッチェを核として、あれだけサッカーファンが小中学生の中では一番多いわけですから、子ども達の人材育成も含めて、そして育てていくというのが一点と、それからサンフレッチェをやっぱり育てていかないといけない。長く続けてサンフレッチェも活動してもらうためには、スタジアムの立派なものがあって、より多くの方が応援に行かないといけないというのが一つあるのと。

やはり平和都市・広島として、色々なスポーツで国際的に随分来ています。サッカーだけではなくても。そういう意味ではサッカーが今一番人気ですので、そういう国際スポーツとしてやれるということは、街中のスタジアムとしてぜひとも欲しいなと。そして今日のような例から見ると、まちづくりはきっとできると思う。そういう知恵を出さなければいけないと思いました。

塚井委員

前は所用で出席できなかったのですが、今日、色々な情報を見せていただいて、私も大変不勉強なところがございました。様々な工夫がですね、サッカースタジアムというのはサッカースタジアムだけで使われるものではないという可能性をたくさん見せていただきましたし、私としてはサッカーチームの経営だけの立場から判断しなさいと求められているのではないと思っていますので、これは先ほどから、会長、副会長も強調されておられますように、このスタジアムというのが広島のブランディングなり、広島の将来の活性化というところでどうつながっていくか、そのための有力な手段になる可能性があるというところは、今日はたくさん示していただけたのかなと思います。

私もまだどのような対象案については、全くまだ勉強は足りないところではございますが、お話を聞いていて、実はちょっとデータの話になって恐縮ですが、何処にあるのでしょうか、

サッカースタジアムって。たくさん例を見せていただいたのですが、こういう中心部にスタジアムを持っていくやり方を採用されているまちと、それから必ずしもそうではないというような断片的にですけれどもその辺りがですね、今日聞いていて興味が湧いてきてまして。可能性としてはどうなのかなと思っておりまして。感覚的には野球のスタジアムですと、郊外にあるところが多いように思います。色々な理由があると思うのですが。これがだから核のコンテンツとなるためには、中心部できちんとなりたっていかなくتهはいけない。その辺りのところをもう少し押さえていきたいというのが一点と。

もう一点は、これもやや慎重な言い方になってしまうのですが、有望なコンテンツであることが分かった。となると、先ほど永田先生からお話がありましたが、これでないといけない理由は何なんだろう。広島を中心部をブランド化するのに、サッカーでブランド化、国際化できる可能性もあることは分かったのですが、何か代案になるものが、他のものをここに造ったらどうなるのだろうと、その見通しと比較ができないと、なかなかこれがいいと、分かりました、と言いくいですね。その意味でこれはひょっとしてタスクを超えるかもしれませんが、あえて難しいことを申しあげますが、では一体他にはどんな可能性があるのでしょうか。決して例えば公園化すればいいとか、そんな簡単な話ではないと思います。今日のサッカースタジアムの中で様々な企画を伺っていると、非常に工夫がなされている。これに匹敵するか、これを超えるものがないと、なかなか他のもので有望なものがあると言えない。その中でも少し俎上に挙げて話をしていかないと、なかなか納得ができた形で結論が得にくいのかなと。しかしながら、サンフレッチェにとっても、広島にとってもサッカースタジアムを新しくしていくことは非常に重要で可能性のある選択肢なのかなということが分かりましたということで、今日は大変よい勉強をさせていただきました。

永田委員

塚井先生がおっしゃったみたいに、文化・芸術とか、色々な具体案、旧市民球場跡地ということ言えば色々な案があります。ただそういうのではなくて、色々なものができるのであれば、例えばですが、他のサッカー専用スタジアム、他の都市でどういったものがあるのか。実際に行ってみるとか。おもてなしの観点で委員全員でエディオンスタジアムに行ってみるとか。そういった形でこれが本当にサッカーを通じたおもてなしになっているのかどうかということを見つみる必要もあるのかなと。現状をまずは知るという形で本当にこれがおもてなしなのかという部分を見る必要もあるかなというものと。あとは色々なサッカー専用スタジアムができている都市、まちが何処にあるのか、どういったものがあるのか、近いところでは、例えば神戸とか、鳥栖だとか、そういったものに実際行ってみる、もしくはお招きして色々な話を聞いてみる。造る前と造った後の違いというのを。

あとはサッカーに限らず、例えばスポーツという形で、広島ではトップスひろしまという形で8競技9団体があるわけであって、サッカーをきっかけにして上手く、先ほど副会長からありましたが、新スポーツ王国と言いますか、広島はスポーツ王国であって、新たにまたスポーツ王国の復権をしようという形であるならば、色々なスポーツと絡めていく必要があると思う。そういう絡めていく中でトップスとの係わりとか、他の競技との係わりとか、そういったものをどのように活用していくのか、その中でサッカーというものをどういうふう位置づけていくのか、ということをもう一度考えていかなければいけないのかなというイメージを持ちました。というご提案と意見を述べさせていただきました。

三浦会長

色々な意見をいただきましたが、私の方で意見交換のポイントとして挙げた、都市の魅力向上、それからそこに育つ人々の精神的な意味合いとしてのサッカー、あるいはそれを含めてスポーツ

全体、それから国際交流という視点でのサッカーの位置づけについては、今日色々資料を用意した中で皆さんも認識していただけたのかなと思っております。当然これから先、今言われたように他のものとの対比、具体的な場所というのは考えていく段階になるとは思いますが、本日のテーマである広島のまちづくりにおけるスタジアムというのは、かなり皆さんの中でこれからの広島という地域の魅力向上において重要なツールであり、それからサッカーというコンテンツは大きな意味合いを持つ。それから当然、子ども達を含めて、その親御さんを含めて人間的な成長をする大きなものにもなっているし、それから事例にもあるように、サッカーは本当に世界中で行われている競技ですので、世界に誇れるまちということを考えた時には、サッカーというコンテンツは必ず必要になってくるものではないかという認識はできたのではないかと思います。その点は大丈夫でしょうか。

(出席者合意)

そういった意識を持って、やはりこれは広島のまちづくり、県、市も含めて非常にスタジアムを持つというのは、サッカーというものをまずベースとして大きな意味合いを持つ。それを象徴するものとして専用スタジアムというものがあるのだろうということの認識ができたのではないかと、私は今回思っております。

そういった中で次回以降、実際にどのようなまちづくりの中でそれを活かすのか。あるいは具体的な案をどう練り合わせていくのかということに入りますし、今、永田委員が言われたように、まだまだ私達が知らないこともあるだろうと思う。まちづくりというところで、では他のまちが何をやっているのかということについても、実状を見たうえで議論しないといけないと思っております。

それから、塚井委員が言われましたように、何処にあるのか。実は私もこのお盆休みにイギリスのロンドンに行って来まして、世界的に有名なウェンブリースタジアムに行って来たのですが、その位置関係を見ると、実は中心部から地下鉄で 30 分ほどかかって行くような場所でありました。かなりエディオンスタジアムにも、広島にも似たような雰囲気もありました。ただベースとしての地下鉄、ロンドンの場合は地下鉄が本当に夜遅くまでたくさんの数が動いていますし、車両も大きい、長いものです。そういったものとアストラムラインとの対比がどうなのか。それらも踏まえて、色々な視点でこれからは今後、次回以降、具体的ところで議論を進めていければと思っております。

長々と第 1 回目、2 回目、3 回目と早急に具体的なところに、先ほど加藤委員も言われましたように、色々な候補地がある中で話を進めたいというお気持ちがあったのは重々承知しておりましたが、まずは広島という地においてスタジアムがあるということがどれだけのものかということが一応認識できたので、次のところに踏み出せるのかなと思っております。

かなり具体的に次回以降は考えないといけませんので、また内容については、色々事務局とも相談したうえで、資料をしっかりと用意をしてご相談して、用意をさせていただきたいと思っております。

また一応、月 1 回ということですので、9 月の中旬頃には次の会を開こうと思っております。また日程については、事前にお送りさせていただいているもので調整したうえで、案内させていただこうと思います。

かなり時間を超過しておりますけれども、本日は以上で終わりたいと思います。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

以上